



中央会事業より

県産生鮮食材のPRと市場内の活性化策について ～組合活力向上事業(協同組合秋田市卸売市場協会)～

10月3日(火)、秋田市の秋田市公設地方卸売市場において、協同組合秋田市卸売市場協会(鈴木信夫理事長)を対象とした組合活力向上事業を開催し、組合員等47名が参加しました。

組合では、市場内の活性化と県産食材のPRや食育推進のため、組合が所有する多目的室の有効活用と利用率の向上が課題となっていました。

そこで、神戸市中央卸売市場内で食材の情報発信や料理教室等を運営しているマーケットピア神戸株式会社の石原マネージャーを講師に迎え、秋田の食材を広く消費者にアピールする方法やイベント・料理教室等の事業展開・運営手法について学びました。



[講師：石原氏]



[研修会の様子]

マーケットピア神戸(株)が開催する料理教室のポイントは次のとおりです。

- (1) 講師は、本物の味を知ってもらうため、各食材のスペシャリストを迎えている。
- (2) 受講料は3,000円から6,000円程度と比較的高めの料金設定だが、使用する食材にこだわり、料理は全て持ち帰りができる。
- (3) 募集方法は、神戸市の広報誌やチラシ、ホームページ、ファンクラブ登録者へのメールマガジンで配信している。

講師の石原マネージャーからは、「料理教室のテーマを決めるときには、タイトルだけで内容が的確に伝わるように工夫している。実際に参加したら『想像と違った』と言われたいようするため、HPでは、料理教室の詳細な内容も伝えるようにしている。」「お客様からの信頼に繋がるため、食材の質を落とすようなことは絶対にしない。」等の話があり、参加者にとっては多くのヒントを得た研修会となりました。

組合では、施設の有効活用と県産生鮮食料品をPRするため、料理教室の開催回数を増やしていきたいと考えています。本研修会で学んだことを施設運営に反映させることで、市場内の活性化に繋がることが期待されます。

設備保全の重要性を学ぶ

～組合活力向上事業(秋田スギ製材協同組合)～

10月16日(月)、秋田市のホテルメトロポリタン秋田において、秋田スギ製材協同組合(大坂真一理事長)を対象とした組合活力向上事業を開催し、組合員等24名が参加しました。

組合員の製材工場における製品生産力は、機械の稼働時間に大きく比例し、機械の故障を未然に防ぐことは生産性を最大限維持することに繋がります。

そこで組合では、本会事業を活用し、千葉県にある高度ポリテクセンターの竹野教授を講師に迎え、設備の自主保全の必要性とその効果について学びました。

講師の竹野教授からは、「機械(設備)保全活動は、機械が故障しないようにするための取組であるが、埃の除去、オイル交換等、単純なメンテナンス作業だけではない。機械の異音や摩耗粉、廃油に異質物の有無等を確認し、

その混入原因を調査し、故障原因を除去することが重要である。」等の話があったほか、具体的な設備保全に関する指導が行われました。参加者からは「故障してから対応するのではなく、故障する前から不具合となる原因を追及することの大切さを知ることができた。」等の感想が聞かれるなど、設備保全に対する重要性の認識が高まった様子が伺えました。

組合では引き続き、設備機械の自主保全に必要な点検項目リストの制作と運用について研究を重ねていく予定です。



[研修会の様子]

■秋田県と経済団体による「イクボス」共同宣言

10月5日(木)、秋田市の秋田ビューホテルにおいて、職場の仕事と生活との両立を応援しながら、自らも仕事と生活の充実に取り組む上司「イクボス」を目指した共同宣言が行われました。

本会からは伊藤専務理事が出席し、佐竹敬久知事をはじめ、県内の経済団体等9名が宣言書に署名し、働きやすい環境の実現に向けて全力で取り組むことを誓いました。

また、宣言に先立って開催された講演では、内閣府地域働き方改革支援チームの渥美由喜委員より「『ワーク』と『ライフ』は横並びではない。生活という基盤がしっかりしたうえで仕事が行われることで、企業の生産性は向上

する。」といった話のほか、県内のワーク・ライフ・バランスに取り組む企業が紹介されるなど、管理職が率先して部下が働きやすい環境づくりの推進を呼びかけました。



〔イクボス共同宣言の様子〕
 (※左から2人目が伊藤専務理事)

■節目の年を盛大に祝う ～協業組合湯沢車検センターが創立30周年式典を開催～

10月13日(金)、湯沢市の湯沢ロイヤルホテルにおいて、協業組合湯沢車検センター(石川力理事長)の創立30周年記念式典・祝賀会が開催されました。

石川理事長は、これまで組合の歩んできた歴史を振り返りながら、「自動車整備業界は、組合設立以降、規制緩和や少子高齢化に伴う所有台数の減少等の影響を受け、昭和62年に10社で設立したメンバーのうち4社が入れ替わった。こうした状況のなか、創立30周年を迎えることができたのは、ひとえに組合員の団結力によるものである。この30周年を新たなスタートとし、

更に組合員が一丸となって組合運営を進めていきたい。」と挨拶を述べました。

その後の表彰式では、多年にわたり組合の発展に尽力した組合功労者及び優秀専従職員に対して秋田県中小企業団体中央会会長表彰が行われ、記念祝賀会では、総勢114名が参加し、節目の年を盛大に祝いました。



〔石川理事長〕

支援団体活動レポート

組合士の抱える課題と飛躍のための方策を考える

～東北・北海道ブロック中小企業組合士協議会～

10月6日(金)、秋田市の秋田キャッスルホテルにおいて、第34回東北・北海道ブロック中小企業組合士協議会の研修交流会が開催され、来賓や東北・北海道ブロックの組合士72名が参加しました。

開会式では、東北・北海道ブロック中小企業組合士協議会の鈴木英弘会長より主催者挨拶の後、秋田県中小企業組合士会の堀川深雪会長が開催県として謝辞を述べ、来賓を代表して秋田県産業労働部の石川聡次長と全国中小企業組合士協会連合会の黒川政春会長より祝辞が述べられました。



〔開会式の様子〕

研修交流会では、「中小企業組合士の抱える課題と更なる飛躍のための方策」をテーマにパネルディスカッションが行われ、各道県の組合士による意見交換が壇上で繰り広げられました。

■組合士制度を普及させるために

必要なアクションとは何か

- 業界のブロック交流会などで組合士制度を紹介する。交流の場を通じて、普及のために組合士自らが一步を踏み出すこと。
(北海道医師(協))
- 他県の事務局職員が組合士を取得したことを知って刺激を受けた。他県の組合に対して組合士制度を紹介することは有効。
(宮城県電機(商))

■組合士を取得したきっかけと

組合役員からの理解度について

- 先輩女性職員に憧れ、自分も組合士に挑戦しようと決意した。支部を含めて現在10名が組合士の資格を保有しており、組合役員からも認知されている。組合士の研修交流会に参加する際の会費は組合が負担し、資格取得の際には昇給制も設けられるなど理解は深い。
(秋田県電気工事(工))

■組合士を増やすために期待すること

- 組合士でなくてはできない仕事がないということが悩ましい。総会資料には組合士の署

名捺印が求められるなど、1つでも組合士が組合運営上必要となるケースが欲しい。

((協)サンロード青森)

- 中小企業組合士は『あなたのための資格』ではなく、『周りから必要とされる資格』でなくてはならない。(郡山トラックセンター(協))
このほか、コーディネーターを務めた堀川会長のもとで、組合士が抱える葛藤など、赤裸々な話を交えながら、パネルディスカッションは盛況のうちに終了しました。



[パネルディスカッションの様子]

引き続き開催された講演会では、秋田醸造株式会社の小林忠彦社長より、「秋田県の酒造業とNEXT5の活動」をテーマに、縮小する市場環境のなか、売れる日本酒づくりのための酒蔵元5社による取組が発表され、講演会終了後に開催された交流懇親会では、各道県から集結した中小企業組合士らによる活発な交流が行われました。

インフォメーション

国税庁では、租税の意義や役割、税務行政に対する知識と理解を深めて頂くため、年間を通じて税に関する啓発活動を行っていますが、毎年11月11日から17日を「税を考える週間」として、集中的に広報広聴施策を実施しています。

今年度は、「くらしを支える税」をテーマとし、税の役割や適正・公平な課税と徴収の実現に向けた取組のほか、社会保障・税番号(マイナンバー)制度に関する情報や国税電子申告・納税システム(e-Tax)の更なる利便性の向上に向けた情報等を国税庁のホームページで紹介していますので、是非ご覧下さい。

[国税庁ホームページ] <http://www.nta.go.jp/>



中央会職員コラム

本会では、皆様に中央会の職員をより身近に知っていただくため、「中央会職員コラム」を連載しております。どうぞご覧下さい。

商業振興課の深沢です。一昨年までは横手支所に勤務しておりました、昨年の9月から本部の総務企画課へ、今年4月からは商業振興課に異動となりました。分からないことばかりの毎日ですが、会員組合や組合員企業の皆様の少しでもお役に立てるように、日々頑張っています。

自宅が横手市にありますので、毎日電車に乗って通勤しています。最初は慣れなかった電車も今では電車の心地よい揺れに、座ればすぐに夢の中へ…。そして自宅に帰れば、6歳と1歳半の息子達が待っており、抱きつき攻撃に癒やされている毎日です。やんちゃな男の子2人にお手上げ状態の日もありますが、私の強みでもあるポジティブ精神でいつも「なんとかなる!」と前向きな姿勢で子育てを楽しんでいます。

私の子育てのモットーは「豊かな自然と親の愛情、適度な貧乏」であります。机の上での勉強だけでは学べないことはたくさんあり、自然と触れあ

う時間を大切にしたい。物を与えすぎないことで、無いなら無いなりに違う視点から物事を考えられるように成長してもらいたい。そして何より親の愛情が子どもの成長には一番大切だと思っています。

子どもにはこうであってほしいと望むことはたくさんありますが、子どもと同じ目線で物事を考えること、子どもが幸せになるために何をしてあげられるかを考えながら常に接するように心掛けています。子ども達の笑顔を見られることは、私にとって何よりも幸せです。

そんな私の元気の源である子ども達と毎日笑顔で過ごせるように、仕事も子育ても一生懸命取り組んでいきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願い致します。



[記 商業振興課 主事 深沢さやか]